令和５年度第１回　田原本町総合教育会議　会議録

日　時　令和５年１１月２９日　午後３時～午後４時 26 分
場　所　田原本町役場　２階 201 会議室
出席者　田原本町長　森章浩
教育長職務代理者　眞田和則
教育委員　岡本春江　桝井歌世　山田育弘
教育長　山田忠志
事務局　町長公室長　中辻勇
教育部長　森淳一
教育総務課　課長　森川理恵
課付課長　安倍仁
指導主事　金澤一裕　原田智子
生涯教育課　課長　羽山卓哉
文化財保存課　課長　小田成寿
図書館　館長　澤田糸美
欠席者　なし
傍聴者　１名
議　題　町長あいさつ
（１）町内小中学校　全国学力・学習状況調査の結果をうけて
（２）３小統合施設について
（３）その他

○町長あいさつ

町長

皆様から会議で忌憚のないご意見をいただき、教育の課題を行政と教育でしっかりと共有していきたい。

ここ最近の動きでは、コロナ禍の中に導入したタブレットの更新の時期がきていること、幼稚園小中学校への支援員の配置、田原本町独自の施策では 30 人学級の実現、小規模校の北中学校への教科担当非常勤講師の配置、デジタル教科書の導入などを行っている。すべては子供たちの学びのために、今日のこの総合教育会議を良い機会に、情報共有していきたいと考えている。

○議題１　町内小中学校　全国学力・学習状況調査の結果をうけて

（事務局説明）

眞田委員

全国・県と比べて低い項目が多いのはなぜか。昔の田原本町は教育の熱心な地域だと感

じていた。理由はみんなで考える必要がある。ただ、数字だけを重視すると、とある県のように調査のための補習を重視するところもあり問題である。

まずは国語力がベースと考える。そこが弱いのか。原因は一つとはいえないが、子どもが読書を好きになる・親しむ環境づくりが必要。近隣には各学校に司書を置いている学校もある。他の要因も考えていかねばならない。

山田委員

昨年は中学校の結果はよかった。学校訪問では、去年の２年は当時の３年生と比べて少し落ち着きがないように感じたが、３年になり今年は落ち着きが感じられた。

岡本委員

昔は読み書きが重視されていたが、大人も携帯等で簡単に調べたりすることに慣れ過ぎていると思う。タブレットを使用した授業も多かった。書くことにも力を入れていくことが必要。

桝井委員

学力もだが、不登校が増えている。学力保障も必要だが、先ずは居場所づくりを本町でも進めてほしい。

学校現場に戻り、英語を指導しているが、国語力の向上がまず必要。学校の図書室に司書がいない。私のように時間のある者が、ボランティアを活用した図書室の貸出等を行えないのかなと感じた。

地域の行事への参加率が、他と比べて高いとはいえ小学生 72%から中学生になると 39%と減っている。塾や部活が理由かもしれないが、中学生になったら参加しないという雰囲気なのか。中学生も参加し、小学生の面倒を見て一緒に活動するような形になればと思う。

町長

正直な感想としては、学力が全体的に低く感じる。予行演習したら数字が上がるかもしれないがそれでは意味がない。教育予算は就任以来増やし続けていたのに子どもたちに届いていないのが、ある意味ショックを受けた。支援員・講師も確保し、人的配置をして小規模校でも維持させてきている中で、数字として表れていない。

図書室にボランティアの活用はいいと思う。ただ、数年前に町立図書館と学校を繋ぐシステムを導入して、子どもたちが必要とする図書が届くようにした。それをもっとうまく活用していければと思う。

学ぶ意欲を高める仕組みが必要だと思う。他のところでは学校に社会人講師を呼ぶ講演があるときく。田原本町では行っているか。

教育総務課指導主事

中学校では、２年生で職場体験を行い、１年生ではゲストティーチャーを呼ぶ。講師にもよるが、仕事に対する考え方や人生観を話されている。

町長

子どもたちが学びたいと思わせるような、そういった機会の創出がもしかしたら足りてないのかと思った。青少年健全育成の団体もあるので、そちらの予算も使ってゲストティーチャーを呼ぶのも面白いと思う。トップアスリートだった方を呼ぶなど手段はいろいろ

あると思うので、学ぶ意欲を喚起させるようにしたい。

眞田委員

いくら環境を整えても、意欲がなければ仕方がない。どんな環境であっても、子どもたちが学びたいという意欲があれば自然に学ぶ。学ぶ意欲は、身近で言えば家庭・親、そして学校の先生の姿勢から来る。あんな先生になりたいなどの気持ちが学ぶ意欲に繋がる。教員とはまた違ったゲストティーチャーなどから刺激を与えることは大事だと思う。ゲストティーチャーは子どもへの影響だけでなく、先生の教える意欲を高めることにもなる。教員研修は各学校だけでなく、町としての研修を行ってもらいたい。

これは不登校が多いことにも関連性があるように思う。特に中学生に多い。現場やいろんなところから意見を出し合って考えていく仕組みを練らないといけない。支援員の増加や予算の増加が必ずしも解決策とはならないと思う。

町長

たぶん先生方もショックだと思う。奈良県平均よりも低い結果は、先生方の自己肯定感にも関わってくるかもしれない。結果として上がっていくような、抜本的なきっかけづくりが必要。キャリア教育として、例え短い時間でも有名な人から話を実際に聞くことは、子どもたちの心を揺さぶることになると思う。

不登校の子どもは全国的に増えているときくが、田原本町の状況は。

教育総務課指導主事

多い。ここ数年、急増している。理由としてコロナ禍のため在宅で勉強することが多くなったのが引き金となっているともいわれているが、それ以外にも心の中で悩む子どもが多い。

町長

そちらも心配である。私は“不登校”の概念を無くしたいと考えている。自分も一時期学校に行っていないときがあった。学校に行かないことが悪いことではなく、行かなくても教育環境がしっかりしていればよいのではと思う。

岡本委員

“不登校をなくさなければならない”という言葉だけではなくならない。学ぶ場所さえあって、不登校のカウンセラー・講師があればと思う。例えば、不登校相談員の資格検定講習のような講習会を開きつつ、町民の人にも考えてもらう機会を町で作れたらいい。“子どもも保護者も学校に行く気力もなくなってしまったから止まる”のではなく、保護者の話もきいてあげられる人がいて、最終的には学校に戻ってくるのを目標として、保護者を支援する仕組みづくりができないか。大人も学べる場があればと思う。

町長

学校現場だけで解決できないこと、実施できないことは、生涯教育の講座の中で取り組むことを検討してほしい。一元的に不登校になっている子の親が悪いという風潮はよくない。

桝井委員

不登校はどうしても負の連鎖が起こる。不登校の子は身近にいる。親に起因したり単に

子どもがさぼっているという理由だけではない。子どもは休んでも後ろめたさがあり、不登校の子はこんなにも苦しんでいるというのを、周囲の大人がどう理解してあげるか。連鎖を断ち切らねばならない。ちょっとやそっとではすぐには解決しないが、手探りであっても何かの手立てをとにかく取り組んでいかねばならない。

まずは不登校の数字を公表してもよいのでは。講演会や仕組みづくりを通して、いろんな要因の子どもたちをみんなで考えバックアップしていけたらと思う。

町長

おっしゃるとおり、子どもの要因はさまざまだろう。

きっかけなど学ぶ意欲づくりのため、教育委員会だけでなくその他の協議会などもまきこんで仕組みづくりができればと思う。

図書室については、司書は人材・予算の問題もある。ボランティアの活用も検討していきたい。

○議題２　３小統合施設について

（事務局説明）

町長

これまでと違う点は、仮校舎を造らず早く建替える。その浮いたコストで屋内運動場を建替える。プールがないのは驚かれるかと思う。

今年度、東小でプール授業を委託したことは好評だったと聞いている。先生からも授業の組み換えが不要だったのがよかったとも聞いた。

眞田委員

南側配置案が現状では一番良いと思う。費用も下がった。

町長

検討課題であるスクールバスは出してあげたい。文科省のいう４km というのは現実的ではなく、杓子定規にこだわらずできる方法を考えてもらいたい。

眞田委員

不登校の子どもの対応部屋や、インクルーシブ教育のため、特別支援やバリアフリーも考えてもらっていると思う。

気になるのはジェンダーアイデンティティの問題で、トイレや制服など考慮してもらいたい。

教育総務課付課長

教員を中心とした PT で様々な話し合いを進めている。先進地の事例を含めながら検討を進めていきたい。

岡本委員

多様性を認める時代であるので、自分の好きなものを選べるようにしてもらいたい。

町長

せっかく新たに作るので、既定にとらわれず発想を変えて検討してもらいたい。

今後の予定は、パブコメ中に住民説明会を実施。基本計画は３月中に決定。来年度基本設計と進む。

○議題３　その他

眞田委員

先ほども出た不登校について。全国的に急増している。文科省の調査では約 38%がどこの機関の支援を受けられず、いわばほったらかしの状態になっている。

どのくらい不登校の中学生がいるのか調べてみたら、令和４年度で全国 5.98%、奈良県 6.21%、田原本町が 8.21%で 62 人。令和３年度で全国５%、県 5.45%、町 5.72%。年によって増減はあるが、やはり看過できない数字で多い。

原因は家庭や学校などいろいろあると思うが、相談できる場所・機関が必要と考える。市では適応指導教室があるが町では難しい。町のやすらぎ教室の充実、人員配置、保護者への周知を進めてもらいたい。不登校の問題はどこかで学力の問題にもつながっていると思う。私も教育委員である以上、この問題をしっかり提起していきたい。

不登校は、今問題となっている 8050 問題にも繋がる。町全体の活力にも関係していく。我々教育委員でもこの問題を考えていかねばならず、町長におかれましても財政面などいろんな面で支援をお願いしたい。

この総合教育会議で、学力の問題もさることながら、不登校の問題と対策なども議題に挙げて、中長期的な視点に立ちながら議論していきたい。

町長

不登校の問題は実に様々であるので、田原本町の不登校の原因を調査した方がよい。

教育総務課指導主事

県への月例報告の中で、ある程度理由が分かる部分もあるが一概にはいえない。長期欠席の児童生徒の数字が上がるが、それが不登校としての扱いになるかは検討しなければならず、原因究明は大事である。

町長

保護者がいなくてもいいから、子どもの行く場所をつくってあげたい。

岡本委員

居場所づくりも大事だが、理解してもらえる大人がいろんなところにいるような、気軽に相談できたらよいと思う。子どももわざわざ“そこに行かなければならない”と思うのではなく、ちょっとしたアドバイスがもらえる場があれば。

眞田委員

東京都大田区では地域の民生委員、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなどがチームを組んで、地域みんなで支援していく取り組みがある。こういったいろんな事例を勉強していかねばならない。

町長

田原本町では、これまで不登校対策に積極的に取り組んではいない。地道な作業となる

のはわかるが、原因が分からないことには解決には至らないので、原因が知りたい。

例えば家庭の事情なのか、友達のトラブルなのかで、対策の方法が変わる。

教育総務課指導主事

子どもも、理由を話していて整理できないこともある。先ほどもあったように、気軽に相談できる場が多くあれば良いと思う。

眞田委員

学校から提出されたデータをもとにした文科省の調査では、不登校になった理由の１位が子どもの「無気力・不安」が 51%。ところが、ある保護者へのアンケートでは「先生との関係」33%、「学校のシステムの問題」と続く。認識に食い違いがある。先生方は自分たちではなく親や家庭に原因があると捉え、親は学校にあると捉える傾向がある。

先生も多忙で、分刻みのスケジュールで余裕がなくイライラするなどの理由もあるかもしれない。いろいろなデータ、情報を集めて、みんなで議論していくことが大事だと思う。

桝井委員

小学生と中学生では違いがあり、別に考えないといけない。環境が変わったら学校へいける子もいる。

中学生には“こうなりたい”というキャリア教育は有効と考える。

町長

私の場合、祖父祖母が助けになった。今は核家族化というのも１つ要因があるかもしれない。

やすらぎ教室の拡充も手かもしれない。かしこまった場ではなく入りやすい雰囲気で、例えば違う公民館に出張するなどもよいのではないか。

教育長

今もやすらぎ教室の拡充は検討して実現していっている。これを発信していくことが重要。

町長

今回の会議で、行政としては不登校が多いことが認識できた。

来年度からスタートできるものはスタートできるよう、教育委員会とも何らかのアクションを起こしていきたい。

午後 4 時 26 分　終了